

令和6年度 関西大学まちづくり研究報告会

都市部の大学生が地方を訪問して行う 滞在型実習授業の効果分析

日時：2025年2月23日

場所：結とぴあ305・306

関西大学 社会資本計画研究室

北詰 恵一

吉本 陽向

松居 凜

本日の内容

1. **地域再生(大野)(=学生が大野市を訪問して行う滞在型実習授業)の効果分析**
2. **大都市圏での大学生生活が、大学生の地元への思いに与える影響分析（3大都市圏対象研究）**

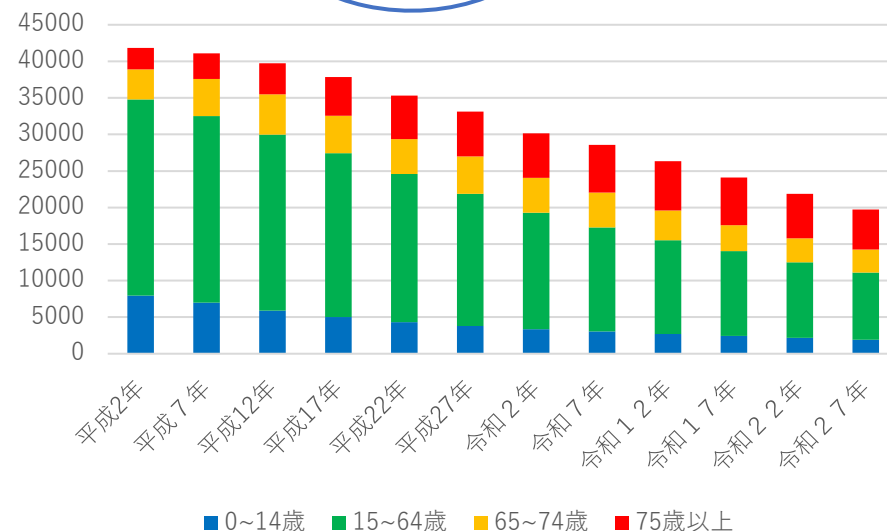
背景

現在、大野市では人口減少や少子化・高齢化の進行に伴い、**地域コミュニティの存続が危ぶまれている**

(大野市「まち・ひと・しごと創生 大野市人口ビジョン(令和2年度改訂版)」)¹⁾

移住した「定住人口」でもなく、
観光に来た「交流人口」でもない、
地域や地域の人々と多様に関わる人々

地域づくりの担い手となる **「関係人口」** の創出が重要



大野市の人口推移の実測値・推計値¹⁾

「地域再生（大野）」による学生の訪問・滞在が
そのきっかけになる可能性

目的

滞在型実習授業「地域再生(大野)」での訪問・滞在によって、地域や地域の人々との関わりに対する意識がどのように変化したかが重要



【研究の目的】

- ① 「地域再生(大野)」により，地方への**意識変化の観点**から**滞在型実習授業の効果**を明らかにする．
- ② 来年度以降の「地域再生(大野)」の**授業改善に向けた指針**を示す

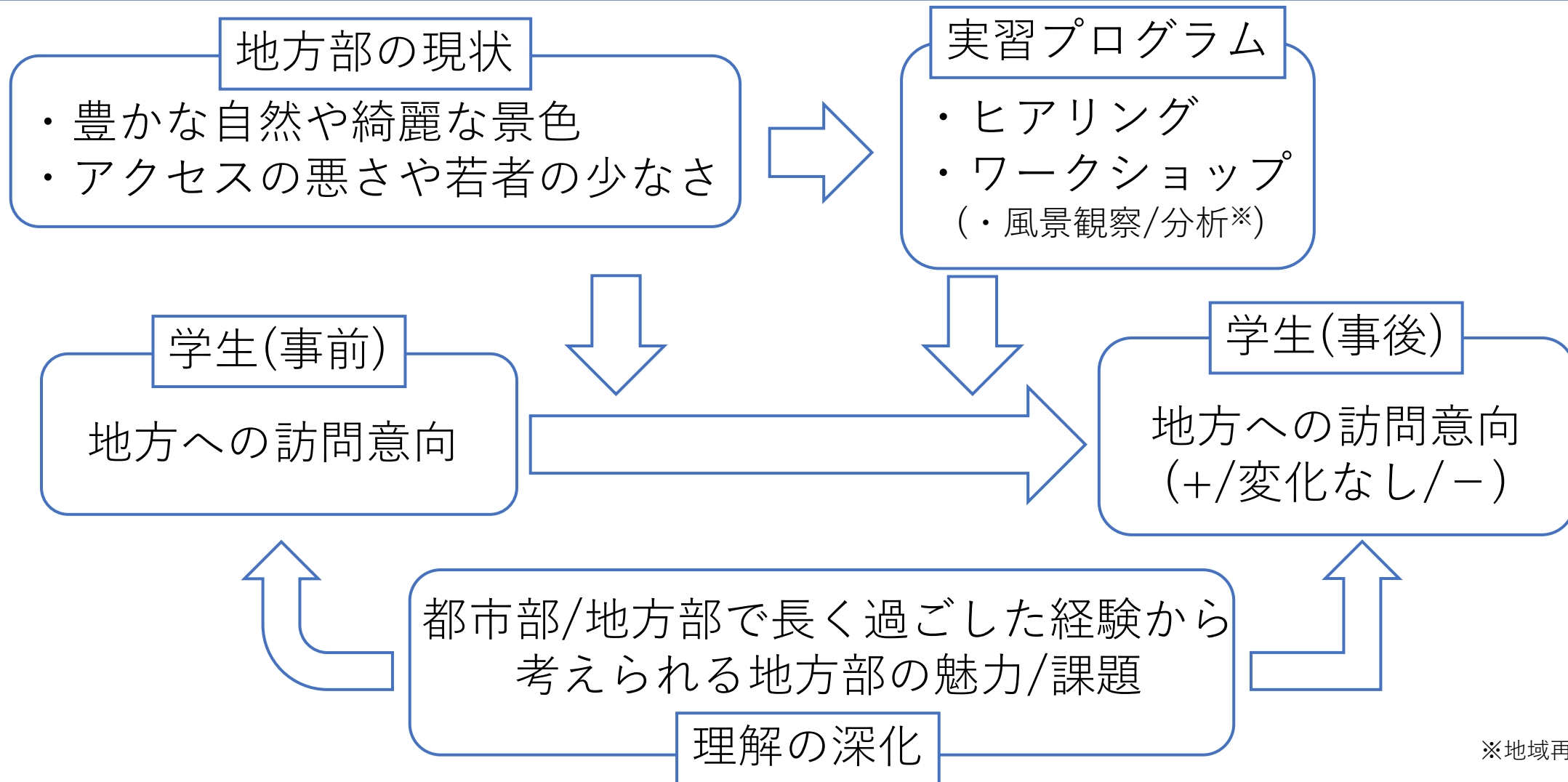
アンケート+テキスト分析

【研究の方法】

- ✓ 受講生の基本属性と関連づけて，前後比較等により，授業効果を分析する
- ✓ 地方大学が自分のフィールドで行う実習授業と比較することで，都市部の学生が地方を訪れるタイプ特有の実習効果を明らかにする

ヒアリング

仮説(学生の意識変化モデル)



※地域再生(丹波)の場合

授業効果分析のためのアンケート概要

地域再生（大野）を履修した学生8人と地域再生（丹波）を履修した学生11人との計19人にアンケートを実施

Q1	あなたの氏名をお答えください。
Q2	あなたの学籍番号をお答えください。
Q3	小中高の12年間で最も長く過ごした地域(都道府県・市)をお答えください。なお、答えたくない場合は該当地域の人口をその場で調べ、千人単位で記入してください(端数は切り捨て)。
Q4	この授業以外の機会でも丹波市(大野市)を訪ねたいと思いますか。(非常にそう思う、かなりそう思う、ややそう思う、どちらともいえない、あまりそう思わない、ほとんどそう思わない、全くそう思わない、7段階評価)
Q5	授業以外の機会でも丹波市(大野市)に関わる際にはどのような活動をしてみたいと思いますか。(長期滞在(リゾートバイトなど)、地域の人との交流やイベント参加、現地での消費活動や趣味活動(釣りなど)、現地を訪ねて地域を支援する活動、ふるさと納税やクラウドファンディング等での支援、観光、活動したいとは思っていない、その他、複数回答可)
Q6	パラグライダーやマルシェ(大野の湧き水を活用したそば打ち体験や醤油作り体験)等のイベントのために丹波市(大野市)を訪ねたいと思いますか。(7段階評価)
Q7	丹波市(大野市)で大規模な災害が発生した場合、ボランティアとして現地を訪ねし、片付け作業や炊き出し、物資運送等の支援を行いたいと思いますか。(7段階評価)
Q8	丹波市(大野市)という地域について、あなたの思う魅力や課題を教えてください。
Q9	本授業でのグループワークにおいて、あなたは主に何に力を入れたいですか。最も近いものを選んでください。(リーダーシップを発揮したい、意見の不一致が生じた際に仲介・調和を図りたい、話を整理したり問題点を指摘したりしたい、意見やアイデアを積極的に述べたい、他者の意見に対して支持・賞賛したい、情報収集・提供をしたい、場の雰囲気をよくしたい)

→学生の過去の経験(学生(事前)に対応)

→前後比較により訪問意向の変化を測定(学生(事後)に対応)

→班活動の中での役割(実習プログラムに対応)

授業以外での訪問意向（前後比較）

大野の湧き水を活用したそば打ち体験や醤油作り体験等の
イベントのために大野市を訪問したいと思いますか
(地方部出身)

事前\事後	非常に そう思う	かなり そう思う	やや そう思う	どちらとも いえない	あまり そう思わない	ほとんど そう思わない	全く そう思わない	合計
非常に そう思う	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.14
かなり そう思う	0.00	0.00	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	0.14
やや そう思う	0.00	0.14	0.14	0.00	0.14	0.00	0.00	0.43
どちらとも いえない	0.00	0.00	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	0.14
あまり そう思わない	0.00	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.14
ほとんど そう思わない	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
全く そう思わない	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
合計	0.14	0.14	0.28	0.28	0.14	0.00	0.00	1

授業以外での訪問意向（前後比較）

大野の湧き水を活用したそば打ち体験や醤油作り体験等の
イベントのために大野市を訪問したいと思いますか
(都市部出身)

事前\事後	非常に そう思う	かなり そう思う	やや そう思う	どちらとも いけない	あまりそう思 わない	ほとんど そう思わない	全く そう思わない	合計
非常に そう思う	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.08	0.00	0.08
かなり そう思う	0.00	0.08	0.08	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17
やや そう思う	0.25	0.08	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.58
どちらとも いけない	0.00	0.00	0.00	0.08	0.00	0.00	0.00	0.08
あまり そう思わない	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ほとんど そう思わない	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
全く そう思わない	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
合計	0.25	0.17	0.33	0.08	0.00	0.08	0.00	1

授業以外の訪問意向（前後比較）

都市部出身の学生を中心に訪問意向が向上

湧き水を活用したそば打ち体験や醤油作り体験イベントのために大野市を訪問したいと思います

一部の学生は訪問意向が低下

（都市部出身）

事前	事前			事後			変化	
	とても美味しかった	どちらともいえない	あまりそう思わない	とても美味しかった	どちらともいえない	あまりそう思わない	増加	減少
事前	0.25	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00
事後	0.25	0.08	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.17
やや そう思う	0.25	0.08	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.58
どちらとも いえない	0.00	0.00	0.00	0.08	0.00	0.00	0.00	0.08
あまり そう思わない	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ほとんど そう思わない	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
全く そう思わない	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
合計	0.25	0.17	0.33	0.08	0.00	0.08	0.00	1

「水やご飯がとても美味しかった」
「星や自然がとても綺麗だった」

「交通の便の悪さを感じた」
「各イベントには魅力を感じたが、
それだけでは訪問したいとは思わない」

「地域再生」 ヒアリングのテキスト分析

実習終了後、アンケートに関するヒアリングを実施
KH Coderを用いて共起ネットワーク図を作成

円の大きさ→単語の出現回数

実線→一定以上の割合で同一の文に登場する
単語同士を繋げる

点線→話題のつなぎ目になった単語同士を繋げる

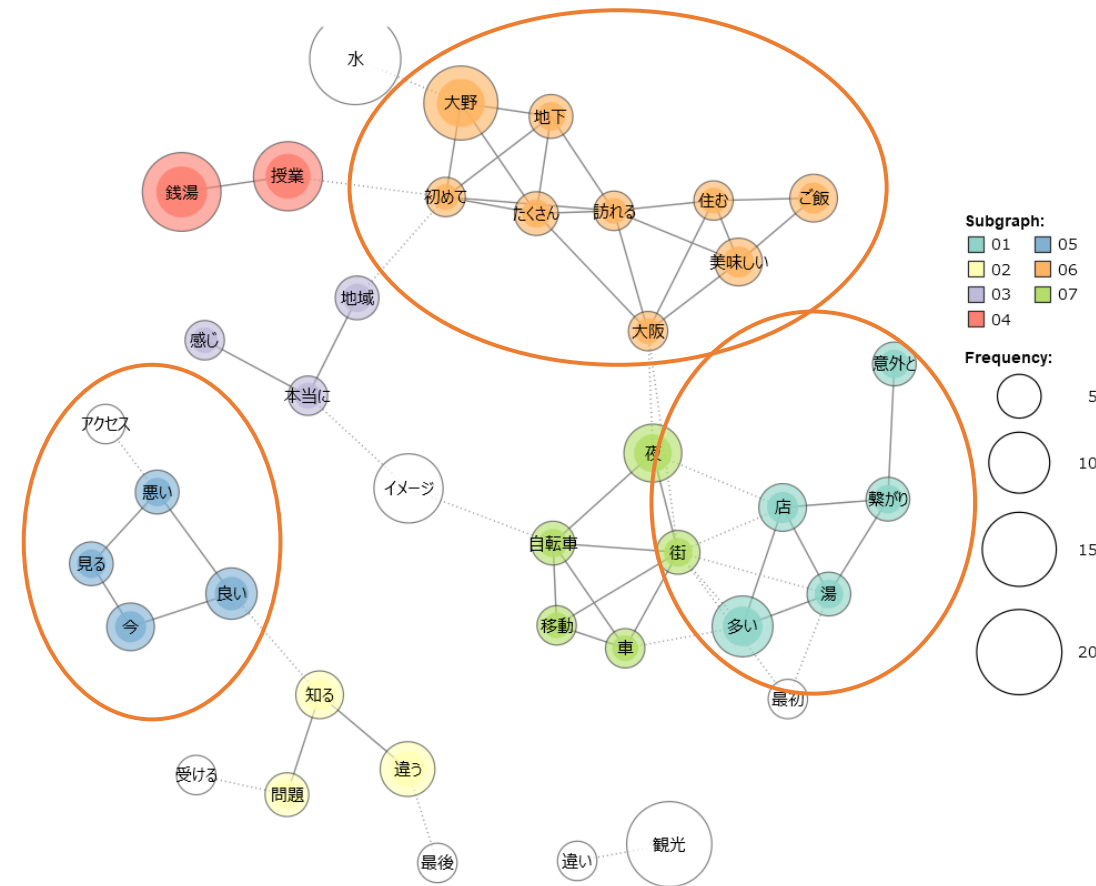
- 大野の地下水や美味しいご飯がポジティブな要因として挙げられた

- アクセスの悪さは丹波と同様にネガティブな要因として挙げられた

→丹波と比べると発言量はやや少ない

- 「繋がり」や「湯」は丹波では挙げられなかった単語である

→地域の人と話をして地域課題について考える取り組みがアクセスの悪さの影響を抑えた可能性がある



「地域再生（大野）」で行った
ヒアリング内容の共起ネットワーク図

地方大学が自分のフィールドで行う実習授業

地方大学が自分のフィールドで行う実習授業「学生まちづくり班」に関するヒアリング

目的：地方大学が自分のフィールドで行う活動との比較を行うこと

対象：福井大学の田中志敬氏

日時：2025年1月20日 形式：Zoomを用いたオンライン形式

学生まちづくり班：

民営のまちづくり会社である「福井県まちづくりセンター」や「福井新聞社」と連携し、福井県内の学生にシビックプライドを持ってもらうこと、福井県内でまちづくりの体験を行うことで関係人口を創っていくことを目的として行っている活動

学生が「自分で課題を考え」、「自分で実践する」活動であり、学生に予算を一切与えず、メンターは知識的なサポートや連携先の紹介等のサポートのみを行うことが特徴²⁾

地方大学が自分のフィールドで行う実習授業

Q1⇐	参加している学生の属性はどのようなものでしょうか。⇐
Q2⇐	参加している学生は学生まちづくり班の活動以外で対象地をまた訪問したいと考えているでしょうか。⇐
Q3⇐	参加している学生は学生まちづくり班以外のイベント(祭りなど)のために対象地をまた訪問したいと考えているでしょうか。⇐
Q4⇐	参加している学生は対象地で何か問題が発生した場合、対象地をまた訪問したいと考えるでしょうか。⇐
Q5⇐	参加している学生は対象地の魅力や課題がどのようなところにあると考えているでしょうか。⇐
Q6⇐	上記の質問項目以外で、学生まちづくり班活動前後で参加した学生の対象地に対する意識が変化したと感じた点はありませんでしたでしょうか。⇐

→「地域再生（大野）」で実施した
アンケートをもとにヒアリング内容を設定

地方大学が自分のフィールドで行う実習授業

- 活動を通して対象地との繋がりを維持したいという思いは強くなる傾向が見られた
→活動内容が一人一人異なるため、活動の結果や連携先との関係の深さによる個人差は大きい
- 連携先からイベント等の手伝いを頼まれ気軽に参加している学生が多い
→学生が連携先と個人単位でやり取りを行うため、個人間の繋がりが生まれる
→自分の住んでいる地域の近くで活動することで、気軽に再訪問できる
- 地域の魅力・課題としては活動にあたってのミクロな視点からの意見が多い
→連携先との交渉頻度や訪問頻度が高い学生ほど連携先の人の人柄や熱意に惚れ込んだり、多くの人との合意形成の難しさが挙げられた

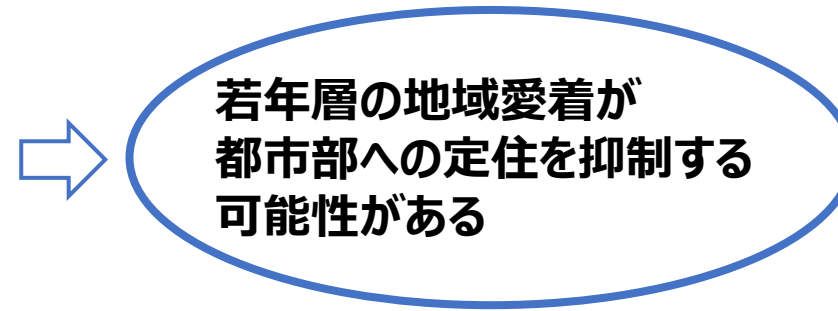
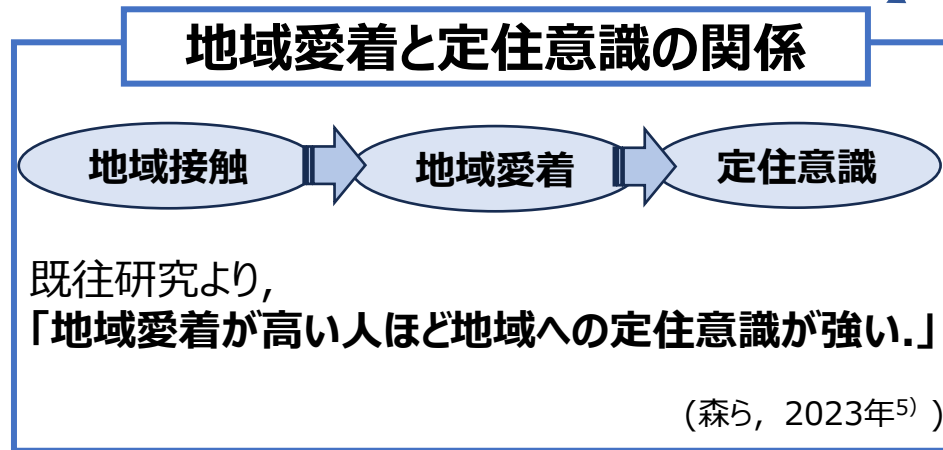
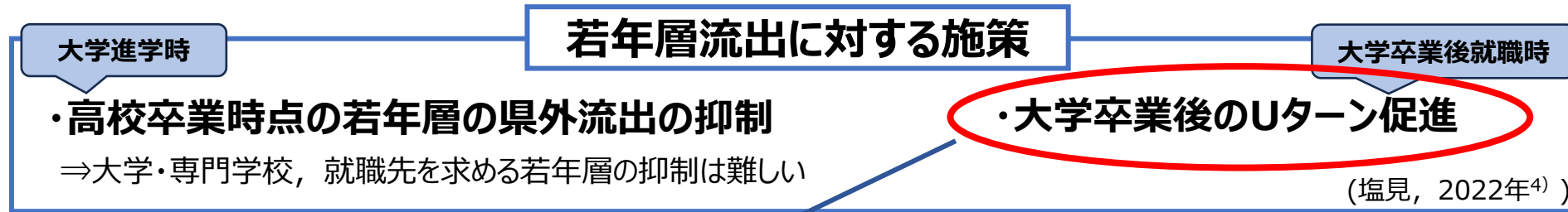
結論と今後の展望

- アンケートの前後比較を通して都市部出身の学生を中心に地域への訪問意図の向上が確認された
 - 地下水や美味しいご飯、歴史的な建物のような大野市の魅力に触れられるようなプログラムは一定の効果が見られた
- 一部の学生においては訪問意図の低下も確認された
 - 地域の人たちと話をして地域課題について考えることで、アクセスの悪さが訪問意向に与える影響を抑制できる可能性
- 「学生まちづくり班」の活動についてのヒアリングを通して、長期にわたり地域と関わることで、主体的な活動や当事者意識の醸成が促されていることが明らかになった
 - 地域に住み、日頃から密接に築いている関係を授業に反映させることで、地方大学が自身の地域に行っている取り組みに近付けることが重要
- 本研究は、来年度以降も同様のアンケート等を行うことで、統計的な分析を継続する必要や年度間の授業効果の比較を行っていくことが必要である
 - 継続的な関わりによって、大野市・関西大学双方にとっての意義を確かなものにする

本日の内容

1. 地域再生(大野)(=学生が大野市を訪問して行う滞在型実習授業)の効果分析
2. 大都市圏での大学生生活が、大学生の地元への思いに与える影響分析(3大都市圏対象研究)

背景と問題意識

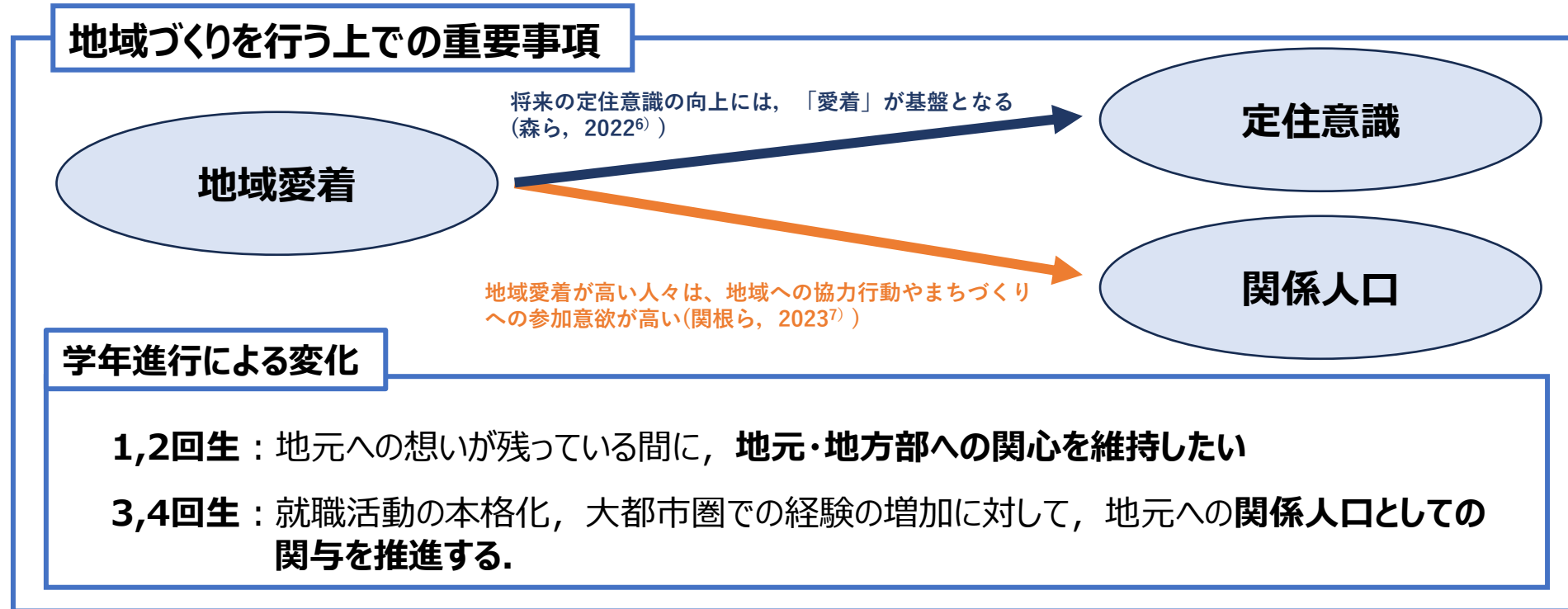


大都市圏の大学進学により，地域との接触が減少し，定住意識が高まらない可能性がある。



大学在学中の生活環境や大学での取組がUターンに与える影響を明らかにする必要がある。

基本的な考え方, 目的



<目的>

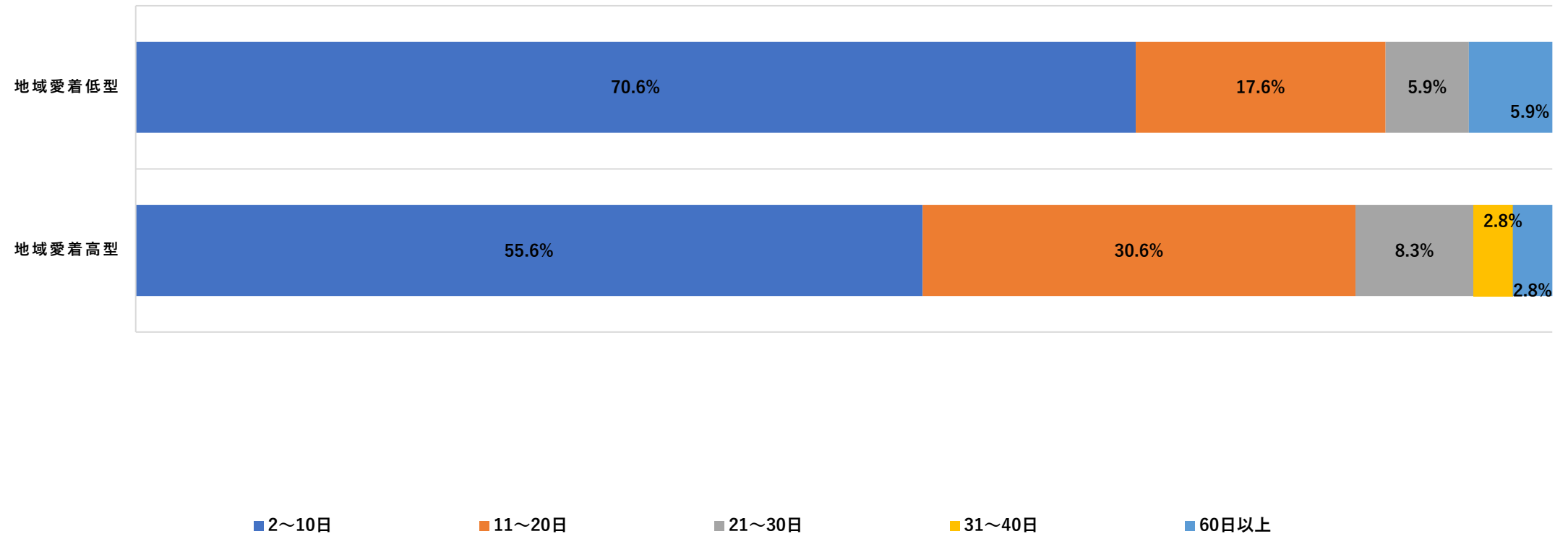
- 大学在学期間中の生活環境や大学での取り組みが、Uターン意向に与える影響を分析
- 分析の結果から、地元に関わる意向を持つ学生を増加させる有効な施策や大学での取り組みを示すこと。

アンケート概要

調査方法	Webアンケート
調査期間	2025年2月
調査対象	三大都市圏の大学に在学し、小中高の12年間のうち、最も長く過ごした地域が三大都市圏外である学部大学生
有効サンプル	86サンプル
設問数	20問
調査内容	個人属性，地域愛着尺度 大学での生活環境，関係人口に関わる活動・意識

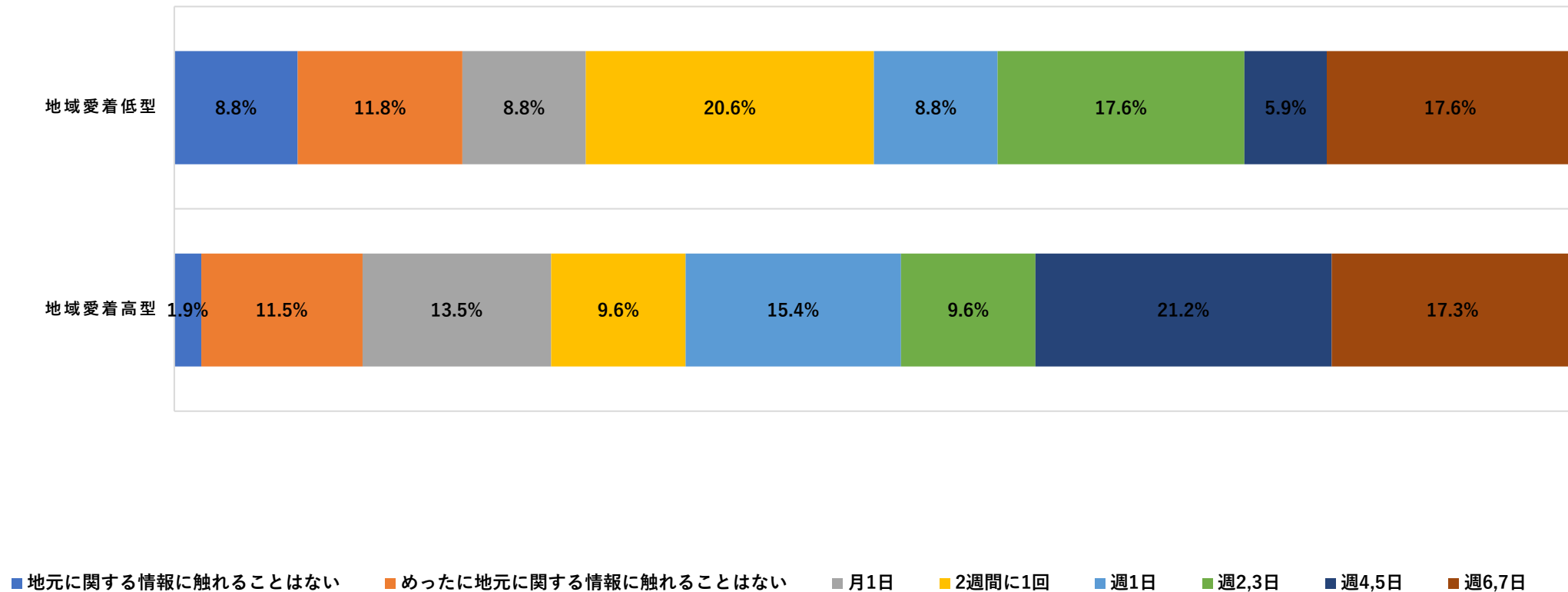
地域愛着類型別の帰省日数

Q. あなたが地元へ帰省した際に滞在する日数は、平均すると年間何日程度ですか？
日数で回答してください。



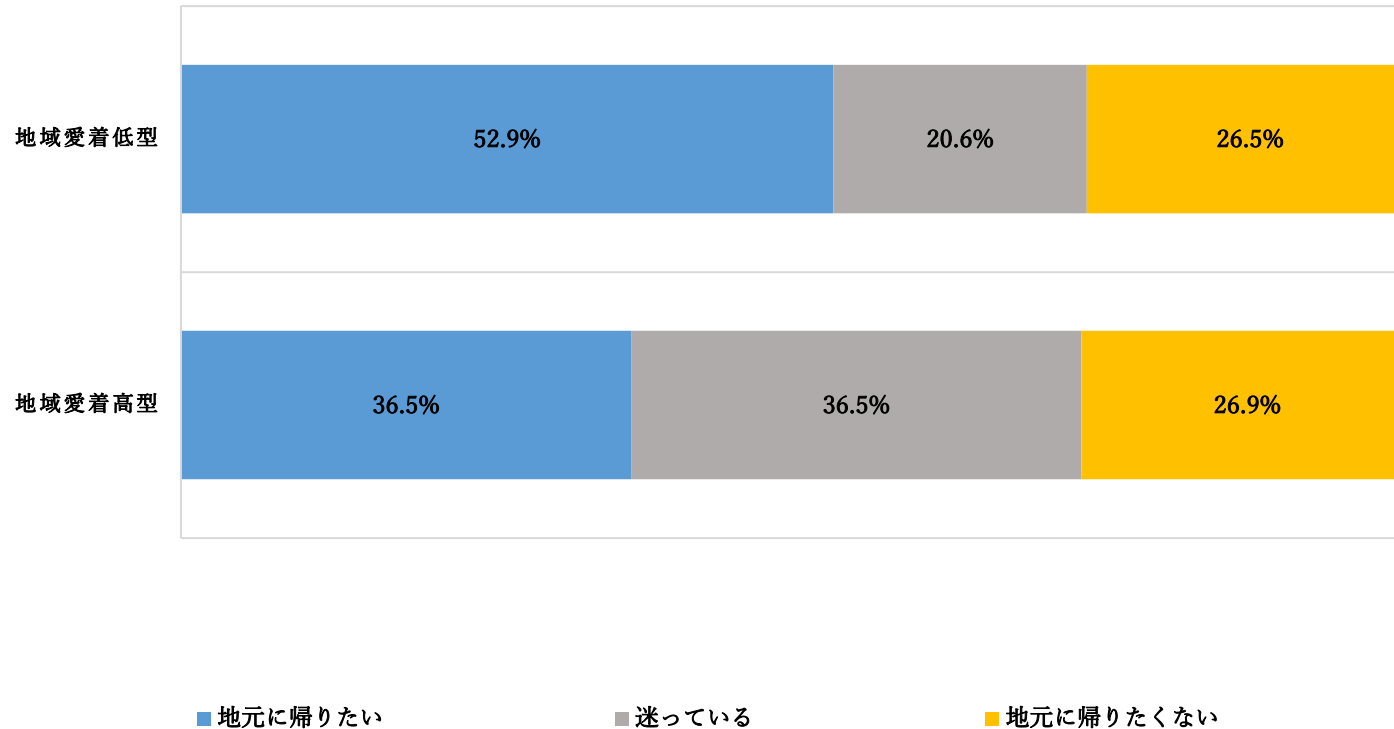
地域愛着類別の情報接触（友人や家族）

Q. あなたは、地元に関する情報にどれくらいの頻度で触れていますか。
地元の友人や家族とSNSやメッセージアプリで連絡を取る場合についてお答えください。

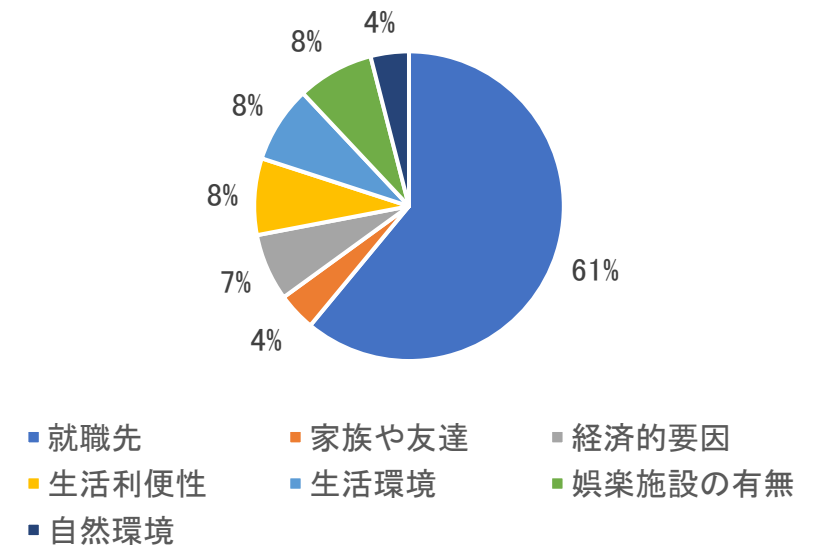


地域愛着類型別Uターン意識

あなたは将来地元に戻りたいと思いますか？



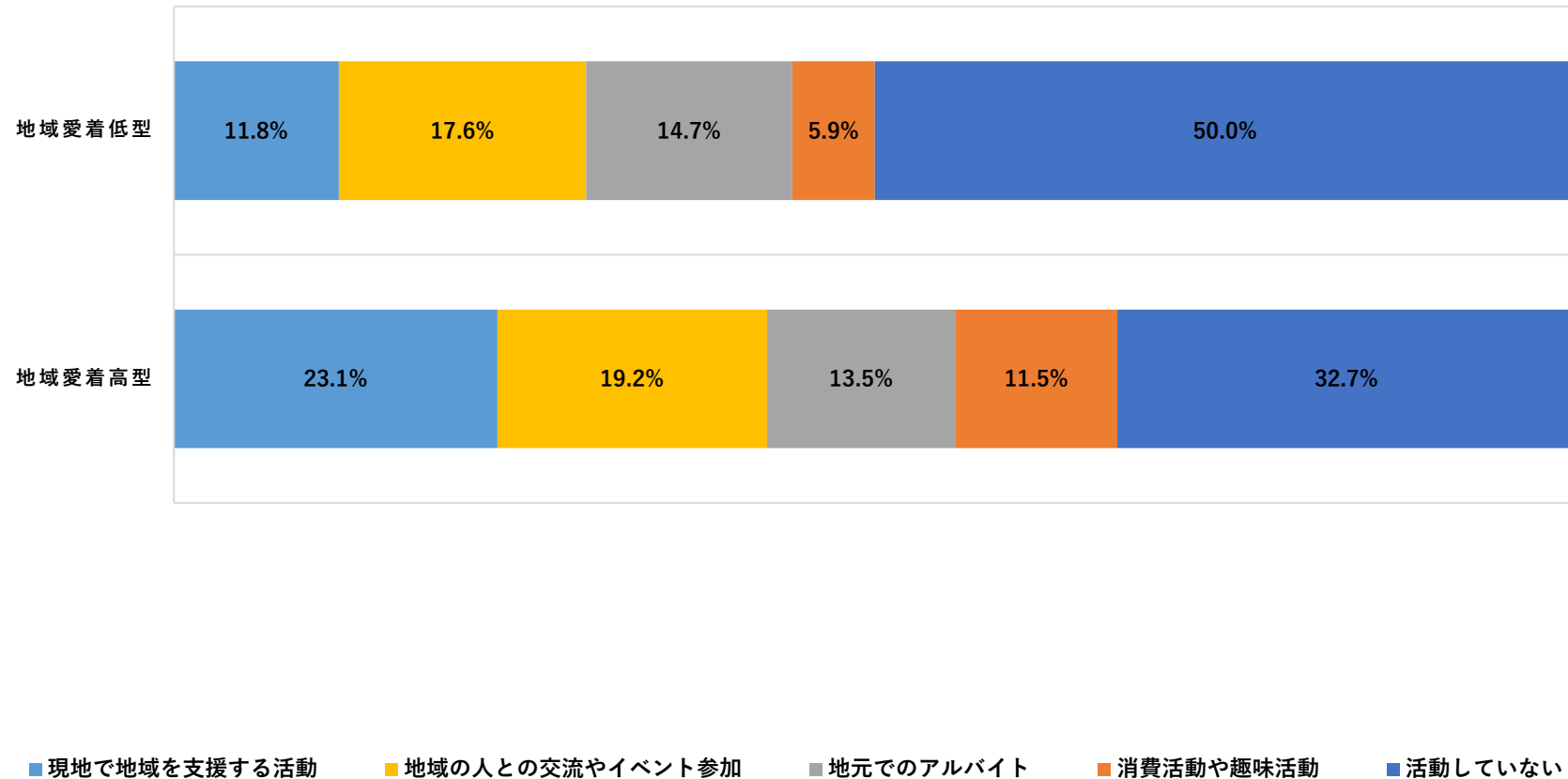
迷っている人の決定事項



※ 地域愛着の集計方法によって
結果が異なることに注意する必要がある

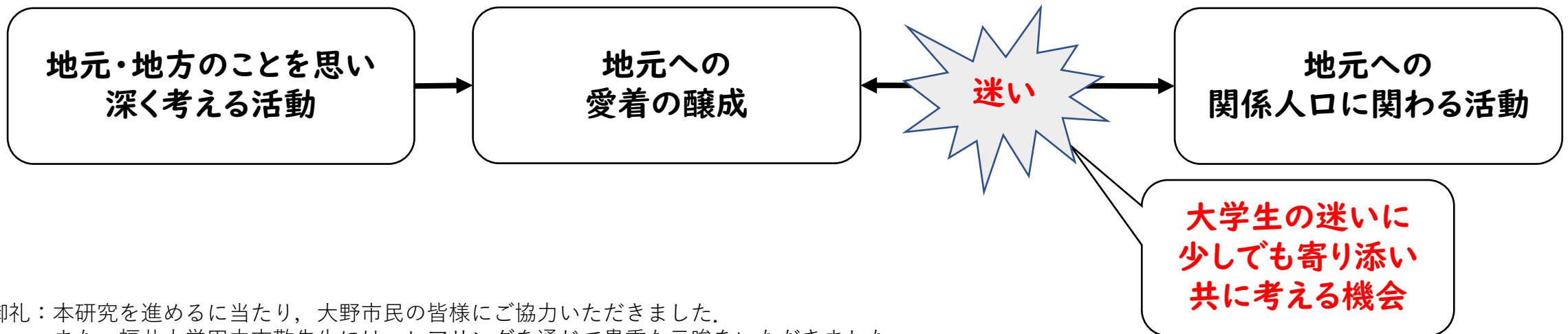
地域愛着類別の関係人口

Q あなたは大学在学中に地元に関わる際、どのような活動をしていますか？



まとめ

1. 大都市圏の大学に在学している間、地元と情報交換をする機会は、地域愛着が高い人の方が多い。また、帰省日数も多い。
しかし、学年が進行するにつれて、その機会は減少していく。
2. 将来地元に戻る意向を尋ねたところ、地域愛着の高い人の方が「迷っている」比率が高い。
そして、その迷いの中で意思決定する決定要因は、就職に関することである。
3. 地域愛着の高低に左右する地元・地方との関係性は、単に、地元での消費活動・趣味活動も影響しているが、より深い関係が影響している。ただし、「地域の人々との交流やイベント参加」といったものよりも、より地域への貢献を考えた「現地で地域を支援する活動」の方が影響する



御礼：本研究を進めるに当たり、大野市民の皆様にご協力いただきました。
また、福井大学田中志敬先生には、ヒアリングを通じて貴重な示唆をいただきました。
本実習授業受講生にも協力を仰ぎました。ここに謝意を表します。